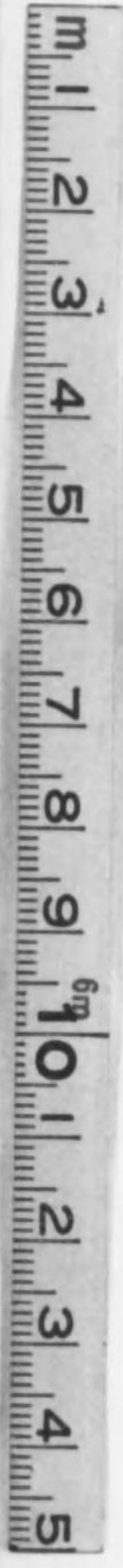


特279-202



1200501132091

社 279  
02



始



特 279  
202



詞の加よし路序

世ふはるまじくはるまじく人のもてはるまじくわさ。カメ



文の心を樂しませしめさるるをなむおむある屋  
たれども。それの中ふ歌よむまさをなむ。物より  
まじくまじりてまはるまじき。はるまじとぬこはし

せも。うははしとせも。おむまをのんつら縁よむ出  
まらむ。それ言葉葉のよぬしつらむを。人のまじ



侯爵醒醐忠重寄贈

○ 詞の加よし路序

10

めて。おむのしとと後しやとらむむふ。わの  
こゝろちかくさごと。樂しきおもふ色たこそなり。  
かくいふも古事記の本紀ふええ。神世上古  
此哥のもやうむひちたれや。今此世とても  
ちたよこやちたるこりなある色し。そらもく

藤原奈良の法代を經て。寛平延喜のころを  
ひよき。大やけわさし。いよくはありふのみした

もてあそひくさとなりて。花お葉も虫のいろ音  
ふたけ。月雪霞のをとふしふもよあされ。高き  
みしりたみやむたかしくさはひとたむちあり  
もてゆたて。事ひろくなはまふ。那ふとれ  
題をまうけて。おの身ふあつうらぬ事だも。  
そのをまふしふおきたれこそを。意なまれ  
旅ふまれ。海川野山名やころふよそへ。こほ

もはこしおあるを引いて。世ふひひあは  
さぬ免つらしにんまをやはけし。あまを  
志難く高くおけあらしおのしやあふや。ま  
あひつ。あひえさるひりのほとと。よみゆき力  
のきもち。やあひくお見えあふれ。そのよれ哥と  
よれ哥と見えあふて。同じあま友多しとさら  
あま。又さらぬよるしおてと。こそおましうや

やあえつ。或も遠たさあひふも宇つあまへ  
て。もてあまあめるよ。思ひほこるともあまれや。  
あまらあよくあましあましやま。あまれあま  
やあて。上古中昔の人の。あまのあてあまよ。神  
も人もあまらあましあましあましあましあまし。  
言霊あまはあ道あまあまあまあまあまあまあま。  
今もあましあまを種あまあまあまあまあまあまあま。

ふもむらさき。心をくつた。思ひをあらして。よもや  
のへもむむも。たほろけあらぬ志とて形も。  
一首あてもよくとみえむも。かへし  
その樂しさを後めめやも。まゝ家集おまれ  
何おまれ摺巻おろはして。世おひろくあやむ  
後も。末の世久しく傳ふも。よ代よとちあやむ  
詞の玉もあやむも。さへくさくあやむも。あやむも。

大あいの世あはれぬ人の。哥巻よあはれぬ  
あやももさくあはれぬ。榜本朝臣山部宿禰も日本  
たやももその名あはれぬ人となれぬも。  
あやも集おるえむ。あやむもあはれぬ。此二人も神也  
もあやむもあはれぬ。あやむもあはれぬ。あやむもあはれぬ  
あやもあはれぬ。喜撰法師檜垣姫あやも。その歌  
あやもあはれぬ。あやむもあはれぬ。あやむもあはれぬ。

はしめよう。此道は与たるやそのかきりをおこらて  
多る形也。今の世の人よきとて一首せらるる事也。  
いさゝかも古法ふ多きひあやそめおも昔は例  
ふよきさうもむ。いふひあくちをうたれそ  
なとあし。詞は玉緒詞の八衢をうひまぬひの  
ほやふ。ほくまてととやのいしよきあきらをさせ  
まぢくぬむ。そふある人ぬくくちあたあは

学此道さありあて。そこかしこよききそひあらは  
何れらの書やと。やあくくめつらあ形事おあられ  
せ。もやく鈴屋翁の著しおあれあつた。まめやかよ  
教へさとして。はてて物学ふ人のあめふその功よ  
あくそおあゆれ。それおつきて後鈴屋翁の八衢  
めあるんこそまめやあなる教あき。わあせもあらの  
れちあくも形ちあはる書あつといへた。そひ此あら

とせむ。詞の通路も又家の教りちもく。まめくし  
書あり。此道も深くうら。くほく阿きうふはれは  
ちあうちうてん。かくもえさとけまうらむ。

文政十一年戊子秋

本居大平



詞通路上卷

本居春上庭



その清國のち葉れいもあやしく久きくたかな  
いふやうに又まほひにまなまのちのうらうらうら  
かたなつてまめれまめれいりてまめれまめれ  
かれもものまめれまめれいりてまめれまめれ  
うらうらまめれまめれ

そくくくくまめれいりてまめれまめれ

あくくくみてもいりてまめれまめれ

ゆてふれんを詞のまめれまめれいりてまめれまめれ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines. It appears to be a form of shorthand or a specific dialect of a language.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is written in a fluid, connected style across several lines. It appears to be a form of shorthand or a specific dialect of a language.



Handwritten musical notation on a single staff, consisting of a series of rhythmic and melodic lines.

Handwritten musical notation on a single staff, continuing the piece with various rhythmic patterns.

詞の自他の辨

Handwritten musical notation on a single staff, concluding the piece with a final melodic phrase.



	四カ	四カ	四カ		
		まうぞく	うくく	おんん	
四カ	四カ	下カ	四サ	四サ	下ア
まうぞく	ふせぐ	あうぞく	うくく	おんん	う
下サ	下サ	下サ			下サ
まうぞく	ふせぐ	あうぞく			えんん
	下ラ	下ラ		下ラ	下ラ
	ふせぐ	あうぞく		おんん	えんん
下ラ	下ラ	下ラ		下ラ	下ラ
まうぞく	ふせぐ	あうぞく		おんん	えんん

おのんん  
あうぞく

あうぞく

あうぞく

あうぞく

あうぞく

あうぞく

名目として...  
の...  
加行中二股の...  
とあつて加行変格の...  
とあつて加行四股





第一版第二版を四種のくまき入よりてすゝまなりな  
 第三版をあらく依行下二版のくまきなれといふなり  
 ともかたれくまきとすゝまり第一版を依行下二版の活  
 かきねる身五版身六版を依行下二版の活よきうて外の  
 くまきなれ

第一版		下ラ		下ラ
		くまき		くまき
第二版	下ワ	四ラ	下ラ	四ラ
	うゝる	くまき	くまき	くまき
第三版				
第四版	下サ	下サ	下サ	下サ
	くまき	くまき	くまき	くまき
第五版		下ラ	下ラ	下ラ
		くまき	くまき	くまき
第六版		下ラ	下ラ	下ラ
		くまき	くまき	くまき

○うゝまじ上

八

中ラ	中ラ	中ラ						下ヤ	下ヤ
申	ふ	あ						ん	ん
四サ	四サ	四サ	四ラ	四ラ	四ラ	四ラ	四ラ	一	四カ
申	ふ	あ	くまき	くまき	くまき	くまき	くまき	ん	ん
			四ハ	四サ	下カ	四サ	下カ	下サ	下サ
			くまき	くまき	くまき	くまき	くまき	ん	ん
				下サ					下サ
				くまき					くまき
								下ラ	下ラ
								ん	ん
下ラ	下ラ	下ラ		下ラ	下ラ		下ラ	下ラ	下ラ
申	ふ	あ		くまき	くまき		くまき	ん	ん

ちよ奉るゝ句のうち身一版と身二版といふなり〜身三版  
 と身四版といふと直してさうら佐行ト二版は活き〜もを  
 他は活き〜他は活き〜もさうら〜もあ〜も〜も〜も  
 活舟は〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 より考之〜身三版と身六版も句の活とあ〜も〜も  
 こと〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 詞〜又身二版も活き句の身三版も〜も〜も〜も〜も  
 かつ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 ぬ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 り〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も

せれなる事〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 け〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 せ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 あ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 な〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 り〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 ー〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 よ〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 ン〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も  
 て〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も

あつてはねとがきよはあはれとくせしるもなかりはほ  
行してはるうけは加行してをき。さう。彼行してはる。さう。  
四行してはる。さう。なまはれとくせしるなり。依行と四行よりつ  
てはる。さう。多くはる。何の法も何の法も一の言。身三は言  
身三の言より。依行と四行よりつてはる。さう。身三は言  
よりつてはる。おろく。あ。さ。加行の法。何れもか。さう。お  
ろく。あ。さ。と。依行よりつてはる。さ。ま。ま。麻行の法。何れも  
さ。ま。ま。な。ま。と。依行よりつてはる。あ。さ。ま。ま。多行の  
く。ま。ま。な。れ。と。な。ま。か。ま。ま。あ。さ。と。四行よりつてはる。  
さ。ま。ま。麻行の法。何れもはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。四行より

つてはる。さう。身三は言よりつてはる。さう。加行の  
く。ま。ま。な。れ。と。な。ま。か。ま。ま。あ。さ。と。四行よりつてはる。  
法。何れもはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。四行よりつてはる。身三は言より。四行  
よりつてはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。四行よりつてはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。加  
行の法。何れもはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。四行よりつてはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。四行  
なれ。と。な。ま。か。ま。ま。あ。さ。と。依行よりつてはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。麻行の法。何れ  
く。ま。ま。な。れ。と。な。ま。か。ま。ま。あ。さ。と。四行よりつてはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。身三  
の言。身三は言。身三の言より。依行と四行よりつてはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。四行  
よりつてはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。身三は言。身三の言より。四行  
よりつてはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。依行。四行よりつてはる。さ。ま。ま。ま。ま。と。依行。四行より



う〜活きし〜とあれとそ〜い〜い〜い〜中二候の活相さ  
 を才二れまよ佐行羅行の才二れまよのそひてお〜ん〜ん〜ん〜  
 あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
 下二候の活相さその才四れまよ佐行羅行の才二れまよのそひて  
 こ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
 活く保る〜又あそれ〜い〜い〜活相のそはれまよ〜佐行と羅行  
 小〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜平な〜を佐行と羅行よて  
 自他のそ〜い〜い〜い〜い〜羅行よ〜い〜い〜い〜い〜あ〜  
 けよ〜羅行よ〜佐行よ移うた〜い〜い〜あ〜ぬ〜一候あ〜い〜そ〜ま  
 う〜い〜い〜あ〜い〜い〜あ〜い〜い〜い〜い〜い〜佐行と羅行は他

の〜い〜い〜い〜二候〜い〜い〜い〜自他のそ〜い〜い〜い〜い〜  
 別〜い〜い〜あ〜い〜い〜い〜い〜一候の活相さ〜い〜い〜  
 ま〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜移う〜い〜い〜あ〜れ〜一候の活相  
 保う〜い〜い〜い〜又〜い〜い〜活相は海を〜い〜い〜い〜い〜  
 こ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜あ〜い〜い〜あ〜い〜い〜  
 よ〜い〜い〜い〜い〜の〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
 り〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
 い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
 あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
 ち〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

○同行まで自他のもとも、例

加行四段活詞

日下二段活詞

あうそく

あうそく。

たひらく

たひらく。

はくく

はくく。

のく

のく。

やくく

やくく。

右とならふも物のおのつゝはなるといふ句下なるものなり  
はなるといふ句なり

加行下二段活詞

日四段活詞

くく。

くく。

くく。

くく。

ぬく。

ぬく。

くく。

くく。

やく。

やく。

是もよなるものなりと下二段活詞のなるものなり  
はなるといふ句四段活詞のなるものなり

依行四段活詞

日下二段活詞

ふき。

ふき。

右とならふみづゝはなるといふ句下なるものなり



麻行四股活句

まゝむ。

なゆむ。

なゝむ。

やむ。

ゆゑむ。

日下二股活句

まゝむ。

なゆむ。

なゝむ。

やむ。

ゆゑむ。

右よかゝる物のおけつゝはなむとてりふ河下なるは他はゆすゝ  
ゆすゝをとりてゝなむ

四維行四股活句

り。

日下二股活句

り。

右よかゝるはかのつゝはなむとてりふ河下なるは他はゆすゝ  
とりてゝなむ

四維行下二股活句

まゝむ。

なゆむ。

なゝむ。

やむ。

ゆゑむ。

日四股活句

まゝむ。

なゆむ。

なゝむ。

やむ。

ゆゑむ。

是をよかゝるゝはなむとてりふ河下なるは他はゆすゝ  
とりてゝなむ

羅行四辰法句

日下二辰法句

あなづつ。

あなづつ。

いの。

いの。

ろく。

ろく。

やう。

やう。

けつ。

けつ。

右上なるに、おを施すも、さうして下なるを他へ施せらるゝと  
おのつゝ施せらるゝもさうして、おのつゝ下なるに、おを施す  
らうして、おを施せらるゝもさうして、おのつゝ下なるに、おを施す  
是より、佐行と羅行の法句さうして、自他のまゝに、おを施す

さうして、おを施すも、さうして、おのつゝ下なるに、おを施す  
さうして、おを施すも、さうして、おのつゝ下なるに、おを施す  
羅行さうして、おを施すも、さうして、おのつゝ下なるに、おを施す  
て、おを施すも、さうして、おのつゝ下なるに、おを施す  
の身、おを施すも、さうして、おのつゝ下なるに、おを施す  
○加行より、佐行さうして、自他のまゝに、おを施す例

加行四辰法

佐行四辰法

うこく。

うこく。

あつ。

あつ。

か。

か。

かひく。

かひく。

右よなまのつゝ地をりかこも下なまを地を地

加行四股活

依行下二股活

おく。

おく。

かく。

かく。

さく。

さく。

くく。

くく。

ふせ。

ふせ。

右よなまのつゝ地をりかこも下なまを地を地

加行中二股活

依行四股活

おく。

おく。

さく。

さく。

かく。

かく。

右よなまのつゝ地をりかこも下なまを地を地

加行下二股活

依行四股活

あく。

あく。

ふ。ふ。

ふ。ふ。

右よなまきおのりいしほまらうか河下なまきおまほまら  
りかこまきなまら

○加行より羅行よりうけて自他のまき例

加行四辰法

羅行四辰法

つ。つ。

つ。つ。

の。の。

の。の。

ふ。ふ。

ふ。ふ。

い。い。

い。い。

右よなまきおまほまらうか河下なまきおのりいしほまら

い。い。い。い。

加行四辰法

羅行下二辰法

あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。

い。い。い。い。

い。い。い。い。

の。の。の。の。

の。の。の。の。

ふ。ふ。ふ。ふ。

ふ。ふ。ふ。ふ。

ま。ま。ま。ま。

ま。ま。ま。ま。

右よなまきおまほまらうか河下なまきおのりいしほまら  
せしほまらうか河下なまきおのりいしほまら

加行下二辰法

羅行四辰法

か。く。。

さ。く。。

さ。く。。

た。ま。く。。

ひ。ろ。く。。

う。く。。

さ。く。。

ま。く。。

た。ま。く。。

ひ。ろ。く。。

右よりの他と依りたるうへに下なるまきかしのひらき  
りよこしなるり

○依行より羅行よりうへて自他のまきかしの例

依行四段活

くらま。

羅行下二段活

くらま。

そいぬま。

めけ。

まてなま。

まてな。

そいぬま。

めけ。

まてなま。

まてな。

右よりの他と依りたるうへに下なるまきかしのひらき  
りよこしなるり

○多行より依行よりうへて自他のまきかしの例

多行四段活

くら。

くら。

依行下二段活

くら。

くら。





多行下二行活

あつふ。

まじふ。

羅行四行活

あつふ。

まじふ。

右よなはあをばすまじふ下なまあのみつゝばす  
りあをさるる

○奈行より羅行よりつて自化のまじふ例

奈行下二行活

うさぬ。

はらぬ。

羅行四行活

うさぬ。

はらぬ。

右よなはあをばすまじふ下なまあのみつゝばす

こゝろり

○波行より依行よりつて自他のまじふ例

波行四行活

うさぬ。

あつふ。

かまふ。

まじふ。

依行四行活

うさぬ。

あつふ。

かまふ。

まじふ。

まじふ。

右よなはあをばすまじふ下なまあのみつゝばす  
はらぬまじふ

波行四段法

あふ。

くふ。

たふ。

さふ。

やふ。

依行下二段法

あふ。

くふ。

たふ。

さふ。

やふ。

右ト云々のいふは、  
をりしこころなす

波行中二段法

あふ。

依行四段法

あふ。

かろふ。

をろふ。

わろふ。

をろふ。

右ト云々のいふは、  
りしこころなり

○波行より羅行よりて自他のよき例

波行四段法

あふ。

くふ。

たふ。

さふ。

羅行下二段法

あふ。

くふ。

たふ。

さふ。



麻行四股活

よむ。

のむ。

うむ。

をむ。

右よかろをさうろろ地をさうろろ河下なるは他と地さうろろ

麻行中二股活

あむ。

佐行下二股活

さうろろ。

のさうろろ。

うさうろろ。

をさうろろ。

右よかろをさうろろ地をさうろろ河下なるは他と地さうろろ

佐行四股活

あむ。

さうろろ。

麻行下二股活

さむ。

佐行四股活

さうろろ。

右よかろをさうろろ地をさうろろ河下なるは他と地さうろろ

○麻行より羅行よりして自他のこと例

麻行四股活

たむ。

羅行四股活

たむ。

右よかろをさうろろ地をさうろろ河下なるは他と地さうろろ

麻行四岐治

うらむ。

かむ。

うらむ。

かむ。

うらむ。

右よかきそ他を麻行四岐治しつゝ下なる他は麻行四岐治しつゝ

麻行下二岐治

あつむ。

羅行下二岐治

うらむ。

かむ。

うらむ。

かむ。

うらむ。

羅行四岐治

あつむ。

あつむ。

うらむ。

かむ。

うらむ。

あつむ。

うらむ。

かむ。

うらむ。

右よかきそ他を麻行四岐治しつゝ下なる他は麻行四岐治しつゝ  
そりしつゝななり

○也行より依行よりつゝて自他のまじり例

也行下二岐治

あつむ。

いぢむ。

依行四岐治

あやむ。

いぢむ。

つひゆ。  
くゆ。  
しゆ。  
右よなほおのつろほふりつてなほおのほふり  
とろふこころなり

つひゆ。  
くゆ。  
しゆ。

○羅行より佐行よりつて自他のまゝ倒

羅行四段活

佐行四段活

くゆ。  
ちゆ。  
て。

くゆ。  
ちゆ。  
て。

な。  
め。  
右よなほおのつろほふりつてなほおのほふり  
とろふこころなり

な。  
め。

羅行四段活

佐行下二段活

か。  
つ。  
し。  
あ。  
ま。

か。  
つ。  
し。  
あ。  
ま。

右よかゝるもさうつゝはききまゝにりつゝ下なるも他はききまゝ  
をりつゝのり

羅行中二股活

佐行四股活

あゝ。

あゝ。

うゝ。

うゝ。

ふゝ。

ふゝ。

右よかゝるもさうつゝはききまゝにりつゝ下なるも他はききまゝ  
をりつゝのり

羅行下二股活

佐行四股活

あゝ。

あゝ。

右よかゝるもさうつゝはききまゝにりつゝ下なるも他はききまゝ  
をりつゝのり

○和行より羅行よりつゝて自他のもさうつゝ例

和行下二股活

羅行四股活

あゝ。

あゝ。

右よかゝるもさうつゝはききまゝにりつゝ下なるも他はききまゝ









なまふ。   
 麻行   
 和行   
 右よかき   
 りつこ   
 ○中二版の活字は羅文字のそいつで羅行よりなる例  
 加行   
 お。

多行   
 波行   
 麻行   
 也行   
 羅行   
 お。

Original

三十一

右よな...の...  
しとち...の...  
○下二段の...  
阿行

阿行

ろ。

ろ。

加行

なま。

なま。

佐行

ふ。

ふ。

多行

右よな...の...  
しとち...の...  
○下二段の...  
阿行  
ろ。  
加行  
なま。  
佐行  
ふ。  
多行

ま。

ま。

奈行

か。

か。

波行

か。

か。

麻行

と。

と。

和行

ま。

ま。









あびやけ

あびやけ

是も若くは佐行四股の活句とかかゝるのさへもいふべし  
なり

ひつ

ひつ

是も多行四股の活句といふ中二股の活句といふ

まのよ

まのよ

あまふ

あまふ

こも波行四股の活句といふ中二股の活句といふなり

さへふ

さへふ

こも波行四股の活句といふ中二股の活句といふなり

たふ

たふ

いふ

いふ

是も波行四股の活句といふ中二股の活句といふなり

か

か

あふ

あふ

いふ

いふ

これをも波行四股の活句といふ中二股の活句といふなり  
とかかゝるふるふるは波行四股の活句といふなり  
格よて後のまよふもあつていふなりといふなり

えふ

えふ

こまき小羅行下二版の活版とてんじりてんじりてんじり  
くまき。くまき。くまき。くまき。くまき。くまき。くまき。くまき。  
不毛。不毛。不毛。不毛。不毛。不毛。不毛。不毛。  
くまきとてんじりてんじりてんじりてんじりてんじり  
くまきとてんじりてんじりてんじりてんじりてんじり  
くまきとてんじりてんじりてんじりてんじり  
あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
こまき小波行四版の活版とてんじりてんじりてんじり  
くまきとてんじりてんじりてんじり  
あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
おろし。

まい若も也行下二版の活版とてんじりてんじりてんじり  
まい。まい。まい。まい。まい。まい。まい。まい。  
こまき小羅行四版の活版とてんじりてんじりてんじり  
くまきとてんじりてんじりてんじり  
まい。まい。まい。まい。まい。まい。まい。まい。  
まい若も羅行下二版の活版とてんじりてんじりてんじり  
くまきとてんじりてんじりてんじり  
あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
こまき加行四版の活版と波行四版の活版とてんじり  
くまきとてんじりてんじりてんじり  
あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
こまき。

こも佐行四股の活句と也行下二股の活句とさう

まうん。

まうん。

こも佐行四股の活句と罷行四股の活句とさう

まうん。

まうん。

こも佐行下二股の活句と波行下二股の活句とさう

まうん。

まうん。

こも波行四股の活句と也行下二股の活句とさう

八衢波行四股の活句のまうんまうんとさう

とりまうんまうんと行と活とこととさう

保なまうんまうんとさう

まうん。

まうん。

こも波行四股の活句と佐行四股の活句とさう

まうん。

まうん。

こも波行下二股の活句と佐行四股の活句とさう

まうん。

まうん。

まうん。

まうん。

まうん。

まうん。

是もも波行四股の活句と罷行四股の活句とさう

まうん。

まうん。

こも波行中二股の活句と罷行四股の活句とさう

くろまら。  
くろまら。  
なまら。

くろまら。  
くろまら。  
なまら。

是亦も麻行下二股の流洞と佐行四股の流洞とさう

くろまら。

くろまら。

こも世行中二股の流洞と佐行四股の流洞とさう

くろまら。

くろまら。

こも世行中二股の流洞と麻行四股の流洞とさう

なまら。

なまら。

こも世行下二股の流洞と麻行四股の流洞とさう

こも世行下二股の流洞と麻行四股の流洞とさう  
 なまら。  
 こも世行中二股の流洞と佐行四股の流洞とさう  
 くろまら。  
 こも世行中二股の流洞と麻行四股の流洞とさう  
 なまら。  
 こも世行下二股の流洞と麻行四股の流洞とさう  
 なまら。

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style with some underlining and is contained within a rectangular border.

Handwritten text in a cursive script, similar to the page above. It contains several lines of text with some underlining and is enclosed in a rectangular border.

おいんかゝるも一をいぬさか物母のうさあはむおれまを尾羽の  
 ちいなるこくさるもちいんくさるもいぬさか  
 又身そらさるもかゝるも一いぬさか  
 ちいなるかゝるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか

かゝるもいぬさか

又いぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか

又いぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか  
 ちいなるもいぬさかのいぬさか



又今叶人の子小虎風なふ 子まかひく 子まぢる 次うして  
なまあまを自地混戦して 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
るものまぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
はまあまを自地混戦して 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
たふひかぢあま

又まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる

なうはれいおのし 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる

子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる  
子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる 子まぢる



みづきさおのつらさゆきとたれと自他混雑してかたさへ  
なやむにちかたにみづきゆきとつらさゆきと自他混雑してかたさへ  
こゝろふてみづきゆきとつらさゆきと自他混雑してかたさへ



詞通路中巻

句の兼用の事

本居春上



かよ物の名も句もまじりていふべしけれはさういふべしけれは  
まじりていふべしけれはさういふべしけれはさういふべしけれは  
まじりていふべしけれはさういふべしけれはさういふべしけれは  
まじりていふべしけれはさういふべしけれはさういふべしけれは  
まじりていふべしけれはさういふべしけれはさういふべしけれは  
まじりていふべしけれはさういふべしけれはさういふべしけれは  
まじりていふべしけれはさういふべしけれはさういふべしけれは  
まじりていふべしけれはさういふべしけれはさういふべしけれは  
まじりていふべしけれはさういふべしけれはさういふべしけれは  
まじりていふべしけれはさういふべしけれはさういふべしけれは



あゆめいさよふさふさなれにさきしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし

梓弓はよふさふさなれにさきしつらうり用ひし  
の何そ射しつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし  
夕つらふさふさなれしつらうり用ひし

色を色と興ふつり用ひて松竹をうつらふは秋のまゝの草  
とていつては秋のよむをいふなり

梅のこれちよふなくよきあれうてつなぐらんひまはれと  
これも春の海のまゝを振りつるうてそのりちれふ  
うらうてものちよふとゆめをせたるたれとあはれ  
よちちちち

久しきもなうけはうれはよむえのまじききおそく  
よきもはれぬ松竹のよむとてねとほつりそのうせと  
久しきかたはらう

夕暮にうらよむは秋のちよふとゆめをせたるたれとあはれ

これをきくは秋のおもむきふつりて松竹のまゝの  
松竹のよむは秋のよむとてねとほつりそのうせと

かゝるよむは秋のよむとてねとほつりそのうせと  
よむは秋のよむとてねとほつりそのうせと  
よむは秋のよむとてねとほつりそのうせと  
よむは秋のよむとてねとほつりそのうせと

よむは秋のよむとてねとほつりそのうせと  
よむは秋のよむとてねとほつりそのうせと  
よむは秋のよむとてねとほつりそのうせと  
よむは秋のよむとてねとほつりそのうせと

あつちゆいひけくおまをわかくしふよふとてまされぬのこころは  
よまけりられまをさしひとてあまをぬのこころよまけり  
ひしとて序のうら

ゆくのこころぬふとてまけり人まされぬまけりてまな  
これよりちを序のうらぬのぬを序のぬを序のぬを序のぬを  
うらぬひしとて

ちちちよめなれまをさしひとてあまをぬのこころよまけり  
こころのこころぬふとてまけり人まされぬまけりてまな  
まけりてまなまけりてまなまけりてまなまけりてまな  
まけりてまなまけりてまなまけりてまなまけりてまな

いへんあつちゆいひけくおまをわかくしふよふとてまされぬのこころは  
よまけりられまをさしひとてあまをぬのこころよまけり  
ひしとて序のうら

ゆくのこころぬふとてまけり人まされぬまけりてまな  
これよりちを序のうらぬのぬを序のぬを序のぬを序のぬを  
うらぬひしとて

ちちちよめなれまをさしひとてあまをぬのこころよまけり  
こころのこころぬふとてまけり人まされぬまけりてまな  
まけりてまなまけりてまなまけりてまなまけりてまな

これと社をいふは布幅のとりかたなりは社神のつとめなり  
なほとていふは浮きなり

ひよりして物をかへに秋の田にいふはのいふはいひとれさき  
うちも終業のそまうを俗儀いふはちやむぢやとりしてふ  
うとちひひりくくふいふはあま利なれと序ちと  
りて

おひのほれにひの終業のいふはのいふはのしははつれ  
こいよれちま序ちと終業のいふはのいふは終業のいふは  
いふは

あーりのいふ人のいふいふはふまめとてまふちやちやなりーは

せのいふまねてはのまかひのいふまねてはのいふまねて  
かゝれぬのまのいふまねてはのいふまねてはのいふまねて  
いふまねてはのいふまねてはのいふまねてはのいふまねて  
不度なちとていふまねてはのいふまねてはのいふまねて  
なれにいふはいふまねてはのいふまねてはのいふまねてはのいふまねて

かゝれぬまねてはのいふまねてはのいふまねてはのいふまねて  
こいよれちま序ちと終業のいふはちやむぢやとりしてふ  
いふまねてはのいふまねてはのいふまねてはのいふまねて  
くくくくくくを考へ合まきーいふはも終業のいふはちやむぢやとりしてふ

うれ田よけひりちの穂よむれまを今ささふあいふは採ぬとて

飽くつゝ森林のこころをうたへ

まの世のこころをうたへてはなすのこころをうたへ

續は橋のこころをうたへ

大空のこころをうたへてはなすのこころをうたへ

海は海をうたへ

花は花をうたへてはなすのこころをうたへ

春は春をうたへ

夏は夏をうたへてはなすのこころをうたへ

秋は秋をうたへ

冬は冬をうたへてはなすのこころをうたへ

夜は夜をうたへ

朝は朝をうたへてはなすのこころをうたへ

夕は夕をうたへ

月は月をうたへ

星は星をうたへてはなすのこころをうたへ

雲は雲をうたへ

雨は雨をうたへてはなすのこころをうたへ

雪は雪をうたへ

霧は霧をうたへてはなすのこころをうたへ

如のこころをうたへ





ちうてえむせなむらぶのまぢうてきみんくし新けり  
ましまあともいふまぢうてきみんくし新けり  
のゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ぞうりて又もまぢうてきみんくし新けり  
この新葉はまぢうてきみんくし新けり  
ねんまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり

まぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり  
ゆるいときのみまぢうてきみんくし新けり





何と云ふ様子なり〜川の流れなり  
 天に雲をくわて〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 流れてゆく〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜

て〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜  
 川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜川の流れなり〜







いかにいふにきくしてきくまなり

詞の延約の事

右古事記書記多葉集小句の如くいふにきくまなり  
あり又つかりいふにきくまなりいふにきくまなり  
ありいふにきくまなりいふにきくまなりいふにきくまなり  
いふにきくまなりいふにきくまなりいふにきくまなり  
い佐行と波行と罷行とふの如く古事記より佐行と波行と  
小延つたるまなりと多うれと罷行よりいふにきくまなり  
行は延つたる例なりとて四段の延約の如くいふにきくまなり  
外の延約の如くいふにきくまなりいふにきくまなり

の如くいふにきくまなりその延約の才二れきより佐行波行よ延り  
いふにきくまなり加行の延約なれどかより延り多行の延約なれど  
たより延り麻行の延約なれどかより延りいふにきくまなり又ま行の  
才みのまよりいふにきくまなりとまたいふにきくまなり又自他の如く  
いふにきくまなりいふにきくまなりいふにきくまなり  
いふにきくまなりいふにきくまなりいふにきくまなり  
いふにきくまなりいふにきくまなりいふにきくまなり  
いふにきくまなりいふにきくまなりいふにきくまなり

けいこいふにきくまなり延約の例

○加行四段の延約より佐行四段の延約よれいふにきくまなり

あがこつにきくまなり あがこつにきくまなり



あふく縁なま。ーハ 大御言なまきさき  
これとひくくせ。ハ け戸ひくげさき  
なかなうさきさきハ 出がなうさきさき  
なげくさきさきハ なげくさきさき  
ふさきさき天下ハ ふさきさき天下さき  
うさきさきさきハ うさきさきさきさき  
○多行四岐の活用より依行四岐の活用よれ  
あ〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
あさきさきさきさき  
ゆ〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

○波行四岐の活用より依行四岐の活用よれ  
あ〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
あさきさきさきさきさき  
な〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
なさきさきさきさきさき  
ささきさきさきさきさき  
み〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
みさきさきさきさきさき  
さ〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
ささきさきさきさきさき  
これさきさきさきさき  
○麻行四岐の活用より依行四岐の活用よれ  
あ〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
あさきさきさきさきさき  
ねさきさきさきさきさき

あーふまがなハ  
 なるまがこハ  
 ちま。ーかまハ  
 ちま。ーらまふま

あーふまがなハ  
 なるまがこハ  
 ちま。ーかまハ  
 ちま。ーらまふま  
 天。り。た。り。ち。り  
 い。ま。ま。ま。ま。ま。ま  
 ち。ま。ま。ま。ま。ま。ま  
 ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま  
 ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま  
 ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま  
 ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま  
 ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま

○羅行四股の活句より佐行四股の活句よれ

そ。ま。ま。ま。ま。ま。ま  
 小田。ま。ま。ま。ま。ま。ま

○麻行一肢活句より佐行よれ  
 ま。ま。ま。ま。ま。ま

ま。ま。ま。ま。ま。ま  
 ま。ま。ま。ま。ま。ま  
 ま。ま。ま。ま。ま。ま

一肢の活句のせ  
 らん。又一肢の活句

○也行中二肢の活句の佐行四肢の活句よれ

いひふまてこやせまき いひよ軌てこいふまて  
やここや。て。 やここS. 1. 2. 3. 4.

中二枝の活句の如うなまきこもはれこもやここやここ

○奈行ト二枝の活句の依行四枝の活句のまきこもやここ

いふなまきこまきこ  
いふ。か。せ。ハ  
か。こ。こ。ま。き。こ。ま。き。こ  
やまき。か。ま。き。こ。ま。き。こ

ト二枝の活句の依行は如うなまきこもはれこもやここやここ  
一はこれと一まの活句をなまきこもはれこもはれこもはれこもはれ

まきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこ  
まきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこ

○依行変格の活句は「コ」行の四枝の活句のまきこまきこ

非まきこまきこまきこ 非まきこまきこ  
まきこまきこまきこまきこ 非まきこまきこ  
まきこまきこまきこまきこ 非まきこまきこ

こまきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこ  
まきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこ  
まきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこ  
まきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこまきこ

存らば〜佐行よの〜  
 又〜  
 後のせれ〜

祝詞よ〜  
 佐行の佐行ト二股の活句よの〜  
 二股の活句よの〜  
 皆四股の活句をれ〜  
 きほさり又〜  
 な〜

お〜ひ〜	お〜ひ〜
〜日〜	〜日〜
い〜ひ〜	い〜ひ〜
〜たち〜	か〜
あ〜	あ〜

う〜  
 兄のき〜  
 ま〜

あておろしきし。縁ハ　あておろしきせり  
なほおろしきし。縁ハ　なほおろしきせり  
それとてし。縁ハ　それとてし  
またもや。縁ハ　またもや  
み。縁ハ　み  
な。縁ハ　な  
け。縁ハ　け  
を。縁ハ　を

いりきりて。縁ハ　入。縁ハ

う。縁ハ　特。縁ハ  
い。縁ハ　う。縁ハ  
は。縁ハ　は。縁ハ  
こ。縁ハ　こ。縁ハ  
ら。縁ハ　ら。縁ハ  
ふ。縁ハ　ふ。縁ハ  
の。縁ハ　の。縁ハ  
と。縁ハ　と。縁ハ  
な。縁ハ　な。縁ハ

○加行四候の活句の波行四候の活句よの

りいほびけり  
 けふふらつよ  
 いろほふ  
 あらふび  
 なびふ  
 まし詞を字種ふほふとあらさになむちり

○佐行四岐の活句の波行四岐の活句ふのく  
 うくはねあふふ  
 うくはねあふふ  
 うくはねあふふ  
 うくはねあふふ

りいほびけり  
 けふふらつよ  
 いろほふ  
 あらふび  
 なびふ  
 まし詞を字種ふほふとあらさになむちり

○多行四岐の活句の波行四岐の活句ふのく  
 うくはねあふふ  
 うくはねあふふ  
 うくはねあふふ  
 うくはねあふふ

右召詞よあつしものこよてかふんあつし  
 ○波行四岐の活句の活句ふのく  
 あらふび  
 あらふび

うらむ。うらむ。	うらむ。うらむ。
おひ。おひ。	おひ。おひ。
あは。あは。	あは。あは。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。

○麻行四岐の活句の波行四岐の活句の活句の活句の活句

うらむ。うらむ。	うらむ。うらむ。
おひ。おひ。	おひ。おひ。
あは。あは。	あは。あは。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。
ふむ。ふむ。	ふむ。ふむ。

○四維行四岐の活句の波行四岐の活句の活句の活句

○四維行四岐

三十三

みろきんじしん 　　みろきんじしん  
しんじしんじしん 　　しんじしんじしん

○多行中二枝の活句の波行四枝の活句よのしんじしん

しんじしんじしん 　　しんじしんじしん

よのしんじしんよのしんじしん

○波行下二枝の活句の波行よのしんじしん

しんじしんじしん 　　しんじしんじしん

よのしんじしんよのしんじしん 又加行佐行麻行羅行の四枝のしんじしん  
のしんじしんよのしんじしんよのしんじしんよのしんじしん  
よのしんじしんよのしんじしんよのしんじしんよのしんじしん

れと序よのしんじしんよのしんじしんよのしんじしんよのしんじしん

○羅行下二枝の活句の波行下二枝の活句よのしんじしん

しんじしんじしん 　　しんじしんじしん

しんじしんじしん 　　しんじしんじしん

しんじしんじしん 　　しんじしんじしん

よのしんじしんよのしんじしんよのしんじしんよのしんじしん  
またなれは行の四枝の活句の波行四枝の活句よのしんじしん又よ  
のしんじしんよのしんじしんよのしんじしんよのしんじしん又な  
しんじしんよのしんじしんよのしんじしんよのしんじしんよのしんじしん  
の活句よのしんじしんよのしんじしんよのしんじしんよのしんじしん



四枝の活符の方にて波行より~~~~~とあり~~~~~  
此行の下二枝の活符がたまきして~~~~~四枝の活符を~~~~~  
~~~~~れくれあり~~~~~なる。水漬の~~~~~な~~~~~  
~~~~~又波行下二枝の活符~~~~~  
佐行四枝の活符の~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

の...  
 あ...  
 り...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

○加行四枝の注目の羅行四枝の注目の...  
 ...

○佐行四枝の注目の羅行四枝の注目の...

た...  
 ...

○波行四枝の注目の羅行四枝の注目の...

う...  
 ...

又...  
 ...  
 ...  
 ...

○麻行四枝の注目の羅行四枝の注目の...

命もちゅちゅ。

風かこもろげ。

こーかみちう。

ちゅちゅちゅ。

は〜ちゅちゅ。

命もちゅちゅ。

風かこもろげ。

こーかみちう。

ちゅちゅちゅ。

は〜ちゅちゅ。

○加行中二版の活字の羅行四版の活字よの〜〜

不つと〜と〜。

ま枝のちゅちゅ。

右の〜と〜三れまよりの〜〜  
きよ〜と〜と〜ふあせ〜と〜と〜  
た二つの〜と〜。

○波行ト二版の活字の羅行四版の活字よの〜〜

よみ〜と〜。

ま枝のちゅちゅ。

○也行中二版の活字の羅行四版の活字よの〜〜

〜と〜。

ま枝のちゅちゅ。

けか思〜と〜  
活の〜と〜  
行ト二版の活字の〜と〜

○二〜と〜

|     |     |     |
|-----|-----|-----|
| 〜と〜 | 〜と〜 | 〜と〜 |
| 〜と〜 | 〜と〜 | 〜と〜 |
| 〜と〜 | 〜と〜 | 〜と〜 |

みれを      むん      むん

たぐも罷行の活句の波行よの〜〜〜ま〜〜〜佐行よけ〜〜〜  
〜〜〜波行の活句の罷行よの〜〜〜又波行よけ〜〜〜  
あれも罷行の活句の波行よけ〜〜〜波行よの〜〜〜  
又い〜〜〜  
の〜〜〜  
これ〜〜〜  
あ〜〜〜  
と〜〜〜

ま〜〜〜あけ〜〜〜相〜〜〜佐行と波行よ小返りて甲〜〜〜活句

〜〜〜あ〜〜〜又活〜〜〜  
ま〜〜〜佐行波行よ返〜〜〜  
〜〜〜  
又右〜〜〜の活句の才三〜〜〜  
たむお〜〜〜

○加行の活句よてい

ゆ〜〜〜      ち〜〜〜  
ゆ〜〜〜      ち〜〜〜  
ゆ〜〜〜      ち〜〜〜

○佐行の活句よてい

おまねーまぶさくハ  
おまねーめぶさくハ  
めぶさくまぶさくハ

おまねーまぶさく  
おまねーめぶさく  
めぶさくまぶさく

○波行の法句よてハ

いんぐもまぶさくハ  
まぶさくーまぶさくハ  
まぶさくまぶさくハ  
まぶさくまぶさくハ

いんぐもまぶさく  
まぶさくーまぶさく  
まぶさくまぶさく  
まぶさくまぶさく

○麻行の法句よてハ

まぶさくまぶさくハ

まぶさくまぶさく

○羅行の法句よてハ

あまねーまぶさくハ  
まぶさくまぶさくハ  
たてまぶさくハ  
まぶさくまぶさくハ  
まぶさくまぶさくハ

あまねーまぶさく  
まぶさくまぶさく  
たてまぶさく  
まぶさくまぶさく  
まぶさくまぶさく

かくてのこもてまぶさくまぶさくハ  
まぶさくまぶさくハ  
あまねーまぶさくハ  
たれと阿奈也和の四行よてハ

又四段の信句よきありてねむるのしるふまじりて麻行のまじりて  
なまらふまじりて

○奈行のぬのしるふまじりて

あひぢりてなまらふ  
らぢりてなまらふ  
そむいたなまらふ  
まなまらふ  
こまらふまらふ

○麻行のむのしるふまじりて

いぢりてまらふ  
まらふまらふ

たぢりてまらふ  
なまらふまらふ  
あぢりてまらふ  
おぢりてまらふ  
うぢりてまらふ  
ひぢりてまらふ

○羅行のろのしるふまじりて

おぢりてまらふ  
おぢりてまらふ  
まらふまらふ  
まらふまらふ  
まらふまらふ

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 又 | 又 | 又 | 又 | 又 | 又 | 又 | 又 | 又 | 又 |
| く | く | く | く | く | く | く | く | く | く |
| ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま |
| き | き | き | き | き | き | き | き | き | き |
| ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま |
| き | き | き | き | き | き | き | き | き | き |
| ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま |
| き | き | き | き | き | き | き | き | き | き |
| ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま |
| き | き | き | き | き | き | き | き | き | き |
| ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま |
| き | き | き | き | き | き | き | き | き | き |
| ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま |
| き | き | き | き | き | き | き | き | き | き |
| ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま |
| き | き | き | き | き | き | き | き | き | き |

いちばんと いちばんと いちばんと ながいこと ながいこと  
 あつたあつた あつたあつた あつたあつた ながいこと  
 あつたあつた あつたあつた あつたあつた  
 あつたあつた あつたあつた あつたあつた  
 あつたあつた あつたあつた あつたあつた  
 あつたあつた あつたあつた あつたあつた  
 あつたあつた あつたあつた あつたあつた  
 あつたあつた あつたあつた あつたあつた  
 あつたあつた あつたあつた あつたあつた  
 あつたあつた あつたあつた あつたあつた  
 あつたあつた あつたあつた あつたあつた





むしーうやこう。うけむ  
なまきら名取ていふ。うりりり  
るやう。個のいふ。うらむむ  
をこなく。あむ。みりふ  
鳥。うらむ。あむ。月を  
先せね。秋のひ。うらむ  
なま。れ。うらむ。うらむ  
は。うらむ。うらむ。うらむ  
ひ。うらむ。うらむ。うらむ  
ま。なま。れ。うらむ。うらむ。うらむ

うらむ。れ。うらむ。うらむ。うらむ  
うらむ。うらむ。うらむ。うらむ  
あむ。うらむ。うらむ。うらむ  
又。うらむ。うらむ。うらむ  
うらむ。うらむ。うらむ。うらむ  
なま。れ。うらむ。うらむ  
又。うらむ。うらむ。うらむ  
く。うらむ。うらむ。うらむ  
又。うらむ。うらむ。うらむ  
と。うらむ。うらむ。うらむ





しーしー

又このあぢげいんせがら後いんまにあのぬりてけいんせう  
こりなげちとあはらうんきあうとあはらうなりけいせ  
のとあはらまき。あはらぬのれぬいんせうきいんけい  
あも佐行よのいんせう

いんせうけいせうとあはらけいせうせのぬりてけいんせう

○佐行のなまきあ。あ。のぬりてきいんせうとあはらあはら  
こちぬのこのぞいあういんせうのいんせう

あ。のいんせう袖まきあはらういんせう

いんせういんせういんせういんせういんせう

せいんせうのいんせういんせう

あ。いんせういんせう袖のうちはあはらけい

いんせういんせういんせういんせう

あはらういんせういんせういんせう

いんせう人のいんせういんせう

いんせういんせういんせういんせう

いんせういんせういんせういんせう

いんせういんせういんせういんせう

いんせういんせういんせういんせう

いんせういんせういんせういんせう

いんせういんせういんせういんせう

The Commission is now in the process of  
revising the regulations governing the  
exercise of the right of appeal

The Commission is now in the process of  
revising the regulations governing the  
exercise of the right of appeal  
The Commission is now in the process of  
revising the regulations governing the  
exercise of the right of appeal

The Commission is now in the process of  
revising the regulations governing the  
exercise of the right of appeal  
The Commission is now in the process of  
revising the regulations governing the  
exercise of the right of appeal

The Commission is now in the process of  
revising the regulations governing the  
exercise of the right of appeal  
The Commission is now in the process of  
revising the regulations governing the  
exercise of the right of appeal

The Commission is now in the process of  
revising the regulations governing the  
exercise of the right of appeal  
The Commission is now in the process of  
revising the regulations governing the  
exercise of the right of appeal

後のうきそくをうけ

さしてゆかぬこととてしるべし。漢文訓は君君と  
なるといふことあり

又とあるのだと語つゝもさへいふはこれ漢文訓は君君と  
り臣臣と。いふも然らば。いふも如し。いふもさへいふことあり

古事記傳ふ告言汝者任我宮之首と。いふもさこの宮のあひ  
つれと。いふもささへいふことあり

又といの語つては。いふもさ

いふもささへいふことあり  
さへいふもささへいふことあり

よきこととてしるべし。漢文訓は君君と

さしてゆかぬこととてしるべし

いふもささへいふことあり

いふもささへいふことあり

いふもささへいふことあり

いふもささへいふことあり

いふもささへいふことあり

また右のうきそくをうけしるべし。漢文訓は君君と

いふもささへいふことあり

いふもさ

○奈行よそき。ふあ。のつ。ち。う。て。な。り。く。も。ま。よ。と。あ。や  
も。よ。の。て。ふ。く。ふ。あ。り。と。く。も。の。そ。う。い。ふ。ま。よ。

秋。さ。う。て。あ。い。ま。い。ま

う。く。も。の。ま。の。き。み。さ。う。く

ね。よ。む。う。の。あ。ぢ。う。な。い。ふ

な。う。れ。稽。こ。あ。く。さ。う。ら。う

ふ。ち。さ。せ。ふ。な。ま。が。う。り。も

く。も。の。れ。ぢ。う。な。い。く

ま。う。き。の。も。ほ。ち。あ。け。り

あ。い。な。い。お。ん。い。と。あ。い。ふ

あ。い。な。い。お。ん。い。と。あ。い。ふ

あ。い。な。い。お。ん。い。と。あ。い。ふ

あ。い。な。い。お。ん。い。と。あ。い。ふ

あ。い。な。い。お。ん。い。と。あ。い。ふ

又新嘗といひな。く。とい。や。き。よ。ひ。の。あ。く。の。ゆ。な。う。ま。紀。の。う。く。小  
ひ。あ。さ。び。さ。と。あ。い。ま。服。の。あ。い。ま。な。う。な。あ。い。ま。と。れ  
の。あ。い。ま。う。又。あ。い。ま。う。い。ま。う。い。ま。う。い。ま。う。又。江。次  
身。小。鑑。菓。と。う。く。繩。と。あ。い。ま。と。和。名。抄。小。加。久。能。阿。和。は。と。彼。堂。と。あ。い。ま  
れ。ら。も。の。あ。い。ま。う。い。ま。う。い。ま。う。い。ま。う。

○波行よそき。ふあ。のつ。ち。う。て。な。り。く。も。ま。よ。と。あ。や

しるゝ又さかなを〜尾ゆきあへ〜尾ゆきあへ〜母のゆま

○麻行よそいゝあれうらあれととゆれとゆれとひま  
あまのうとあまのうとひあれをなまれと〜又侍者のそ

そつゝあげとあまを侍侍よ〜つゝあまのうと  
○也行よそいゝあつま〜あつまゆつ〜あつまゆつ〜

かといひのゆりてよとたれるがゆふら〜なるなり  
さして四岐の活相の身二れ言まぢみでふあ〜と〜あゆめそ  
ひて身四れ言けせてへめれ〜ゆら〜らりふれと活きて  
し〜こ〜つ縁よ〜い〜あ〜た〜〜さ〜ま〜あ〜ま〜さ〜さ〜

ちあ〜い〜い〜な〜い〜身四のまよ〜い〜てけ〜い〜い〜い〜  
アて身一のまれ身四のまよ〜し〜し〜ほあち〜

○加行よそま

|         |          |
|---------|----------|
| むれさけらむハ | むれのかんぢと〜 |
| まけちぢと〜ハ | まけのちぢと〜  |
| さけいハ    | さけのちぢと〜  |
| いゝさけいハ  | いゝのちぢと〜  |

○佐行よそま

|          |         |
|----------|---------|
| むとあまのまよハ | むとあまのまよ |
| うまぢと〜ハ   | うまぢと〜   |



うらむらむら

うらむらむらむら

○多行よても

うらむらむらむらむら

うらむらむら

うらむらむら

うらむらむらむら

○波行よても

うらむらむらむらむら

うらむらむら

うらむらむらむら

うらむらむらむらむら

うらむらむらむらむらむら

うらむらむらむら

うらむらむらむら

うらむらむらむらむら

うらむらむらむらむら

うらむらむら

うらむらむら

うらむらむらむら

○麻行よても

うらむらむらむらむら

うらむらむら

うらむらむら

うらむらむらむら

○四維行よても

うらむらむらむらむら

うらむらむら

うらむらむらむら

うらむらむらむらむら

うらむらむらむらむらむら

うらむらむらむら

うらむらむらむら

うらむらむらむらむら

うらむらむらむらむら

うらむらむら



けしほやうのてつしをみしむくひはつちのさげき  
 多く出まふしやうのてつしはつちのさげきを  
 しやうのてつしはつちのさげきを  
 けしほやうのてつしをみしむくひはつちのさげき  
 しやうのてつしはつちのさげきを  
 けしほやうのてつしをみしむくひはつちのさげき  
 しやうのてつしはつちのさげきを  
 けしほやうのてつしをみしむくひはつちのさげき  
 しやうのてつしはつちのさげきを

のりやうのてつしをみしむくひはつちのさげき  
 しやうのてつしはつちのさげきを  
 けしほやうのてつしをみしむくひはつちのさげき  
 しやうのてつしはつちのさげきを  
 けしほやうのてつしをみしむくひはつちのさげき  
 しやうのてつしはつちのさげきを  
 けしほやうのてつしをみしむくひはつちのさげき  
 しやうのてつしはつちのさげきを  
 けしほやうのてつしをみしむくひはつちのさげき  
 しやうのてつしはつちのさげきを

〇いんぎつ





新嘉のおんてのいさき  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ

すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ

すまふいすまふいすまふ

すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ

すまふいすまふいすまふ

すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ

すまふいすまふいすまふ

すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ

すまふいすまふいすまふ

すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ  
すまふいすまふいすまふ

すまふいすまふいすまふ



Handwritten text in a cursive script, possibly Arabic or Persian. The text is written in a single column and is enclosed within a rectangular border. It consists of approximately 10 lines of text, with some words underlined or enclosed in small boxes.

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. The text is written in a single column and is enclosed within a rectangular border. It consists of approximately 10 lines of text, with some words underlined or enclosed in small boxes.

Handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or a note.



Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, with some words underlined.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, with some words underlined.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, with some words underlined.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, with some words underlined.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a date.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a date.



る跡をうらむきむの奥の海よまがらひのしづかにうらむ

これよりいけさうり 階白貝よりいこうね

かなーは秋のこむせのまじりて 行かぬはなはな

まじりやまなまのふりて

うらむまはら今とわらひのしづかにうらむ

これよりいけさうり

葉あつてけりてはらにのゆせうりて きたまはらとてうけてねまむ

まじりてまなまのふりて

まなまのふりてまなまのふりて きたまはらとてうけてねまむ

これよりいけさうり 階白貝よりいこうね

まなまのふりてまなまのふりて きたまはらとてうけてねまむ

まじりやまなまのふりて









Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a single entry, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a single entry, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a single entry, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a single entry, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a single entry, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a single entry, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a single entry, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a single entry, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a single entry, enclosed in a rectangular box.



Handwritten text in a box, likely a title or introductory sentence.

Handwritten text line.

Handwritten text in a box, possibly a name or specific reference.

Handwritten text in a box, possibly a name or specific reference.

Handwritten text in a box, possibly a name or specific reference.

Handwritten text line.

Handwritten text in a box, possibly a name or specific reference.

Handwritten text line.

Handwritten text in a box, possibly a name or specific reference.



Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, located below the boxed section.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, located below the boxed section.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, located below the boxed section.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title, enclosed in a rectangular box.

松の侍

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

白の守り

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

初時

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, enclosed in a rectangular box.

Small handwritten notes or annotations located below the first box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Small handwritten notes or annotations located below the second box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Small handwritten notes or annotations located below the third box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Small handwritten notes or annotations located below the fourth box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Small handwritten notes or annotations located below the fifth box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.

Small handwritten notes or annotations located below the sixth box.

みづのうへに雲はなほくもる  
かきつる雲はなほくもる  
かきつる雲はなほくもる

雲のうへに雲はなほくもる

しらねのうへに雲はなほくもる  
しらねのうへに雲はなほくもる  
しらねのうへに雲はなほくもる

雲のうへに雲はなほくもる

しらねのうへに雲はなほくもる  
しらねのうへに雲はなほくもる  
しらねのうへに雲はなほくもる

雲のうへに雲はなほくもる

しらねのうへに雲はなほくもる  
しらねのうへに雲はなほくもる  
しらねのうへに雲はなほくもる

雲のうへに雲はなほくもる

しらねのうへに雲はなほくもる  
しらねのうへに雲はなほくもる  
しらねのうへに雲はなほくもる

雲のうへに雲はなほくもる

しらねのうへに雲はなほくもる  
しらねのうへに雲はなほくもる  
しらねのうへに雲はなほくもる

雲のうへに雲はなほくもる

承るをこころにゆきまはるるに  
ゆるぎのたふさせ物とて  
さ

膝白のトよそよ

ありけりもなきあはれも  
ゆるぎのたふさせ物とて  
さ

膝白のトよそよ

しらぬかたよ  
まの葉まはりけりもなきあはれも  
ゆるぎのたふさせ物とて  
さ

膝白のトよそよ

まぢれな新波の秋もあはれ  
ゆるぎのたふさせ物とて  
さ

膝白のトよそよ

袖ふりけ  
まぢれ新波の秋もあはれ  
ゆるぎのたふさせ物とて  
さ

膝白のトよそよ

うらなわらへ  
葉もあはれ  
ゆるぎのたふさせ物とて  
さ

膝白のトよそよ

この君の代は八千代より一石の巖と成ておけのむすまよ

ハナヤエリヤサセウリヨシヤサ

君の代はク————『——』『——』『——』のくは流るゝとせ

や。きよひさのせうち

あそびにまた大津世にやいふものちとけつちよはれにかりめて  
ゆきつて秋まぢのるよいせむことていふこかりにこのまゝ人  
のせ小まうめとわいけるゝはまゝいはなふゝゝぬまゆあな  
アしあゝの文字にゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
又せまゝせまゝ（man）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
せゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
のちとせまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ









まゝて致も致多くよこころをなれとせよそのまゝて  
たふほゆよむむしきいぢりぢりめれを多くよまされし物  
のひやなれ口をけ難しかり候の候よこころを  
法則とこひ何事もあらずまはるひきこころを  
もつてあつむす事とせむねむしかりなれし  
るれしむとのなれしむはものもきりしむし  
事とせむしきいぢりぢりなれしむしかりし  
あつ候し人とはよこころをきりしむしかりし  
なれしむしかりしむしかりしむしかりし  
こころなれしむしかりしむしかりしむしかりし

さて志の如くよこころをなれしむしかりし  
よつて是よこころなれしむしかりし  
他候とて花もむす事とせむねむしかりし  
よむしかりしむしかりしむしかりし  
よこころなれしむしかりしむしかりし  
ねむしかりしむしかりしむしかりし  
事とせむしかりしむしかりしむしかりし  
ねむしかりしむしかりしむしかりし  
して候しむしかりしむしかりしむしかりし

なやたうしよこはまをとおまのなうらうのむよまをて他  
ゆようれいごうていひまみやひるけ信なな平かな春庭  
るよ人の方を多くいふ岩ゆつされとかく他例ようれさ  
たうくゆやうよとをわつてさう

○古今集以後の世れまのものとて何統さかともいれ集より  
出する事なれとて統さ何まなまうとまひまの事なれ  
いゝひもくろくしよこおわてとてむまきまかなり次よ  
後撰集拾遺集ももるよ不款よとれまも多かれと是も  
よく是とむしきかや後拾遺集の比何のつひまの統さう一つの  
さういいてまうらうとやゝ集集より統さとまうりけてよ

とて代集よりしていつりてまこれまてさゆとまうけな  
てよあゝおうけつうくの板あておのつうかなるおあをは集  
のころようれ今く作らるのせまゆまなりて今のまのまれ  
ままおい成事よけなまり利とて新古今集は板板よか  
さあまうりて後れまよまこれれま一何のまらひまといと  
うまはく一それまくまあなといひまれいとてたまま  
ういしまうりけりけりまひまうまはうとやまはくま  
うま事よあけまれまぬうまぬうまむ人ともも後むむ  
ままいと新まうていまうま初学の人なまも  
まも及くまもまひまうまあまらうまらうまのこいつまけ

世にかなしりけるものよそおとせられ

○致す相しるはきくはるる事なれどはるる事な  
と權ひたりしるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
相しるる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
たるる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
るる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
るる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
るる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
るる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な

致す相しるはきくはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
と權ひたりしるる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
相しるる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
たるる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
るる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
るる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
るる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
るる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
るる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な  
るる事なれどはるる事なれどはるる事なれどはるる事な

又、葉のCinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、

又、葉のCinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、  
Cinnabarを抽出するに、

用ケ〜〜〜又ヨリ法武カ〜〜〜  
 中〜〜〜  
 事〜〜〜  
 ○後世此歌詠〜〜〜  
 方此を扱ふ〜〜〜  
 人れ〜〜〜  
 海山〜〜〜

○歌の著者〜〜〜  
 とい〜〜〜  
 方れて〜〜〜  
 なる〜〜〜  
 不自由な〜〜〜





〇また、海軍省の設立は、海軍の発展を期し、海軍の組織を整へ、海軍の教育を振興し、海軍の技術を向上せしむることを目的とし、海軍省を設立することゝす。

〇また、海軍省の設立は、海軍の発展を期し、海軍の組織を整へ、海軍の教育を振興し、海軍の技術を向上せしむることを目的とし、海軍省を設立することゝす。

〇また、海軍省の設立は、海軍の発展を期し、海軍の組織を整へ、海軍の教育を振興し、海軍の技術を向上せしむることを目的とし、海軍省を設立することゝす。

〇また、海軍省の設立は、海軍の発展を期し、海軍の組織を整へ、海軍の教育を振興し、海軍の技術を向上せしむることを目的とし、海軍省を設立することゝす。

ちよあわれなういふもしたういふにかなれしかなういふにけりまら  
 ういふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 けさういふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 ういふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 まいれまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 んと月し結ちしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬか  
 かりまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬか  
 地場のあるまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 ういふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 まのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬか

○老小縁者どもく流刺しなむいふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬか  
 ちよあわれなういふもしたういふにかなれしかなういふにけりまら  
 ういふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 けさういふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 ういふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 まいれまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 んと月し結ちしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬか  
 かりまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬか  
 地場のあるまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 ういふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにま  
 まのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬか

○いふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬかきしなむいふにまのひらぬか



○ 亦先より... の... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...

... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...  
... へ... へ... へ... へ... へ...

やちまきけさまを辨へまむと思くはる十書を採区〜  
 何くむと〜アでとくとねらふまえう〜んてアイウエオを  
 阿行カキクケコを加行サシスセフを依行タチツトを多行ナ  
 ニヌノを奈行ハロフへホを波行ミムメモを麻行ヤイユエヨ  
 を也行ラリルレロを羅行ワヰウヱヲを和行ヤイユエヨ  
 アカサタナハヒヤラフオニの音をイキシチニミイリヰオ三  
 の音をウクスフヌフムエルウオ四の音をエケセテネへメエレエ  
 オオの音をオオソトノホモヨロラ右名の音をどくとむねて  
 辟言へ阿行と〜阿行の文字加行と〜加行の文字か〜同  
 のま〜よう〜いヌオニの音と〜イキシチニミイリヰオ

四の音と〜エケセテネへメエレエの文字同〜  
 何の音と〜イキシチニミイリヰオの音と〜  
 の音と〜イキシチニミイリヰオの音と〜  
 音〜麻行の音ニれまハ何と〜オオソトノホモヨロラ  
 何と〜イキシチニミイリヰオの音と〜  
 と〜何と〜イキシチニミイリヰオの音と〜  
 文字と〜イキシチニミイリヰオの音と〜  
 小〜何と〜イキシチニミイリヰオの音と〜  
 音〜何と〜イキシチニミイリヰオの音と〜  
 何と〜イキシチニミイリヰオの音と〜  
 何と〜イキシチニミイリヰオの音と〜

こゝろのふくむこと後信句の...  
なりその信句も一肢の信句中二肢の信句ト二肢の信  
句の四種なりけ信句の...  
トよりけ...  
を...  
も四肢の信句も一肢の信句も中二肢の信句もト二肢の  
信句も...  
二...  
言キ子ニ...  
身四の言エケセテネヘメエシエ...  
のて...  
を受...

定むるなりけ...  
よてもあえん...  
んのて...  
て...  
も...  
い...  
う...  
う...  
す...  
の...  
の...  
の...

う。う。れ。く。産。汲。位。な。く。も。麻。行。四。段。の。活。句。を。う。羅。行。よ。て。を。あ。ん。  
つ。ん。ふ。う。ん。右。の。や。く。才。一。の。言。う。う。ん。の。て。よ。を。と。受。れ。て。  
知。的。路。な。し。ハ。羅。行。四。段。の。活。を。繁。な。う。一。段。の。活。句。を。加。行。よ。て。を。  
き。ん。奈。行。よ。て。を。ふ。ん。波。行。よ。て。を。む。ん。麻。行。よ。て。を。え。ん。也。行。よ。  
て。を。い。ん。和。行。よ。て。を。あ。ん。右。の。こ。と。く。い。ひ。て。皆。そ。の。行。の。才。二。の。言。  
キ。ニ。に。に。イ。耳。う。う。ん。の。て。よ。を。と。う。う。れ。て。若。似。于。見。射。居。な。と。  
一。段。の。活。句。な。う。は。活。句。を。才。二。の。言。一。言。の。い。か。れ。て。い。と。か。な。う。  
中。二。段。の。活。句。を。加。行。よ。て。を。あ。き。ん。ま。き。ん。つ。き。ん。右。の。や。く。才。二。  
の。言。キ。う。う。ん。の。て。よ。を。と。と。受。れ。て。記。さ。そ。か。も。を。加。行。中。二。段。の。  
活。句。を。う。多。行。よ。て。を。く。ち。ん。と。ち。ん。と。ち。ん。右。の。こ。と。く。才。二。の。言。

子。う。う。ん。の。て。よ。を。と。受。れ。て。巧。因。を。な。し。ハ。多。行。中。二。段。の。活。句。  
な。う。波。行。よ。て。を。お。ひ。ん。こ。ひ。ん。志。ひ。ん。右。の。や。く。才。二。の。言。に。う。う。  
ん。の。て。よ。を。と。う。う。れ。て。生。意。強。る。と。も。波。行。中。二。段。の。活。句。を。う。  
麻。行。よ。て。を。あ。み。ん。う。み。ん。右。の。や。く。麻。行。の。才。二。の。言。に。う。う。  
ん。の。て。よ。を。と。受。れ。て。活。恨。を。し。ハ。麻。行。中。二。段。の。活。句。な。う。也。行。よ。  
も。お。い。ん。く。い。ん。右。の。や。く。才。二。の。言。に。う。う。ん。の。て。よ。を。と。受。れ。  
て。老。悔。を。し。也。行。中。二。段。の。活。を。繁。な。う。羅。行。よ。て。を。こ。り。ん。  
ふ。り。ん。右。の。や。く。才。二。の。言。に。う。う。ん。の。て。よ。を。と。う。う。れ。て。懲。悔。  
な。と。も。羅。行。中。二。段。の。こ。と。く。き。句。を。う。和。行。よ。て。を。ひ。き。あ。ん。右。の。  
や。く。才。二。の。言。に。う。う。ん。の。て。よ。を。と。う。う。れ。て。率。を。和。行。中。二。段。



の活詞をうり下二股の活詞を阿行よても えん右のやく身四の言  
エよりんのでまをことうくれ得も阿行下二股の活詞を紫かん利  
加行よても うけん まきけん つけん右のやく身四の言かより  
んのでまをことうくれ受助積かとも加行下二股の活詞をう  
佐行よても あくせん うせん やせん右のことう身四の言せに  
んのでまをことうくれ合身度かとも佐行下二股の活詞をう  
多行よても いてん まてん へてん右のことう身四の言テより  
んのでまをことうくれ出控満かとも多行下二股の活詞を紫かんり  
奈行よても かさねん くらねん ねん右のやく身四の言ネより  
んのでまをことうくれまね寝かとも奈行下二股の活詞をう

波行よても えん つえん へん右のやく身四の言へよりん  
てまをことうくれ替仕座かとも波行下二股の活詞をう麻行  
よても さめん まめん ぐめん右のやく身四の言メよりん  
てまをことうくれ足進止かとも麻行下二股の活詞をう也行  
よても きえん こえん さえん右のことう身四の言エよりん  
てまをことうくれ消滅栄かとも也行下二股の活詞をう羅行  
よても かれん なるれん ふれん右のことう身四の言レよりん  
てまをことうくれ枯流觸かとも羅行下二股の活詞をう和行  
よても うえん うえん けえん右のやく身四の言エよりん  
てまをことう受け拒絶居かとも和行下二股の活詞をうさで四股の



活ことしかり又最底なると何の活詞をとつや おちん おつ  
 おつ おつれ ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん  
 二の言子よりんのでよきとどうけで子つと二股は活けを多行中二  
 股の活詞なり又救書かると何の活を繋そとつや ゆりん  
 ゆる ゆる ゆる ゆる ゆる ゆる ゆる ゆる ゆる ゆる  
 牙二の言りよりんのでよきと受てリルと活けハ羅行中二股の  
 活詞なり又任瘦かると何の活を繋そとつや まっせん まっせん  
 まっせん まっせん まっせん まっせん まっせん まっせん  
 佐行牙四れ言せよりんのでよきと受てせすと二股は活けを佐行  
 の下二股の活詞なり又妻登かると何の活詞をとつや せめん

せむ せむ せむ せむ せむ せむ せむ せむ せむ せむ  
 麻行の牙四れ言よりんのでよきと受てムと二股は活けを  
 麻行下二股の活詞なりもきの事とつと辨之とされく牙二の言  
 りんのでよきと受てつと何と四股の活詞牙二の言よりん  
 てよきと受てつと何と二股の活詞と中二股の活詞牙四  
 の言よりんのでよきと受てつと何と下二股の活詞なり  
 まくて物をあむゆと一放とつとあむとやとつとあれく  
 んのでよきと四よりんのでよきと下二股四股は一放言し利そつと  
 一放と中二股とを二れ言よりんのでよきと受てつとあむ  
 又四股の活詞を牙三れ言より辨言よつとまて ちん ちん ちん







終